

構成

1. 「温故」が必要とされる2つの文脈
 1. 大災害の時代への対応～気候変動の時代～
 2. 今の時代のトレンドへの対抗
2. 「創新」が必要とされる文脈
 1. “Disruption”の時代への対応
 2. 一部地域の問題から全国的展開への時代への対応
3. 「創新」の方向性の1つ: 災害時自立生活圏の提案
4. これからの時代に必要とされる考え方: 防災【も】まちづくり
 - ・ ①防災だけを目的とするのではなく、総合的なまちづくりの中に防災を位置づける
 - ・ ②日常的なプラスの創出と防災を併せることによって防災を推進する。※防災をきっかけとするまちづくり, 「災害に強い街はいい街だ」
※「隠し味の防災街づくり」, 「防災風味のまちづくり」, 「結果防災」

広島市防災士ネットワーク代表 柳迫長三防災士らが作成した体験談集



「石碑」や「古文書」「古地図」などと同様、「体験談集」も人々に伝える方法の一つです。「語り部」による直接的伝え方よりは力は小さいかもしれませんが、しかし、遠方の方々にも手にとつて読んでいただくことでより多くの人たちに影響を与えられる可能性は高いと思います。

災害によって悲惨な状況に陥ってもそこから立ち上がり、将来に向けてまた歩み出されている被災者や被災地域の人々には逞しさを感じます。体験談を読んで人生観が変わるというような経験をされる方もいることでしょう。一生の中で遭遇するさまざまな艱難や苦しみ乗り越えるための勇気や励ましを感じられる方もいることでしょう。そこからまた強く生きる力を得られる方も多くいらっしゃるのではないかと思います。

編著者の広島大学・海堀正博教授の言葉

◆在宅避難の良い点・課題点

【良い点】

- ・ 住み慣れた自宅で安心感がある。
- ・ 被災時もプライバシーが保たれる。
- ・ 生活リズムを自分でコントロールして生活できる。
- ・ 少しでもストレスのかからない生活をおくることができる。

【課題点】

- ・ 備蓄品など、事前の備えが必要。
- ・ 断水時のトイレ問題。
- ・ エレベーター停止中の上下移動。
- ・ 持病のある場合の対応。
- ・ 避難情報の収集。
- ・ 周囲の住民との協力体制。



多くの地方自治体方針

「耐震性の高い高層住宅や火災や浸水危険がなく、
居住可能であれば自宅に留まり生活して欲しい」